

全圧連会報

第56号
2019.1



contents

| | |
|--------------------------------|----|
| 全圧連 設立 30 周年記念式典・祝賀会を開催…………… | 1 |
| 建設マスター・ジュニアマスターが誕生…………… | 6 |
| 登録コンクリート圧送基幹技能者登録講習・試験を開催…………… | 8 |
| 登録基幹技能者更新講習を開催／建専連全国大会を開催…………… | 10 |
| 全圧連主要会議報告…………… | 11 |
| 若手幹部研修会を開催…………… | 12 |
| 平成29年度経営実態アンケート調査報告書を発表…………… | 13 |
| 建退共のご案内…………… | 14 |
| 全圧連の動き・今後の主な予定…………… | 15 |



左上より、松居孝道氏（国土交通省）、30周年記念式典会場の様子、武田美保氏（アトランタ・シドニー・アテネ五輪 メダリスト）、会場：シェラトン都ホテル東京

全圧連設立30周年記念式典を開催

1988年（昭和63年）、全圧連は旧・建設省の認可を受け、都ホテル東京（現・シェラトン都ホテル東京・東京都港区）にて、社団法人としての設立記念式典を開催いたしました。今般、2018年10月19日（金）に、全圧連は同会場にて設立30周年記念式典を、会員・賛助会員・行政・関連団体・関連企業からの約200名の参加により開催いたしました。

式典では、全圧連長谷川員典会長の開会挨拶に続き、国土交通省 土地・建設産業局長 野村正史氏の祝辞が、同省土地・建設産業局 建設市場整備課 企画専門官 松居孝道氏により代読され、「コンクリート圧送工事は、数ある施工工程の中でも、成果物の品質を左右する大きな要である。圧送工事業の今後の発展への全圧連への寄与に期待する」とのお言葉を賜りました。

祝電披露の後、アトランタ・シドニー・アテネ五輪 シンクロナイズドスイミング メダリストであり、現在は、シンクロの解説や後進の育成のほか、企業研修、教育・地方再生などの分野でも活躍される武田美保氏による記念講演が行われ、引き続いて約220名の参加により祝賀会が開催されました。

無事、設立30周年を迎えることができましたのも、会員企業の皆さま、賛助会員をはじめ関連企業の皆さま、また本会の運営に携わられた関係者の皆さまの絶大なるご協力のおかげでございます。常日頃より全圧連へのさまざまな事業へのご理解・ご協力をいただき誠にありがとうございます。

次ページより、式典での会長挨拶、祝賀会で賜りましたお言葉について掲載させていただきます。



全国コンクリート圧送事業団体連合会

会長 長谷川員典

30周年記念式典 挨拶全文

本日は、一般社団法人全国コンクリート圧送事業団体連合会の、設立30周年記念式典に、かくも多くの皆さまのご来臨を賜り、まことにありがとうございます。

わが国においてコンクリート圧送業が誕生したのは、東京オリンピック後の高度経済成長期の1960年代からであり、建設産業の中では比較的歴史が新しい専門工事業であります。

それから50年あまりがたち、圧送業界がこのように発展できましたことは、圧送業の草創期にご尽力された幾多の諸先輩方、ならびに今日全圧連に加盟する会員企業の皆さま方の並々ならぬ努力の賜物であり、ここに感謝申し上げます。

圧送業の発足当時は、コンクリートを構造物に計画どおりに圧送するためには、コンクリートポンプの性能もまだ低く、また建設現場の作業環境も十分には整っておらず、相当な難工事の連続でした。そのような中、全国各地の圧送業者が立ち上がり、圧送技術を磨くために情報を共有して互いに知識を深めよう、また、建設業としての圧送業の地位を確立しようと、大同団結して、1974年に、今の全圧連の母体である任意団体の全日本コンクリート圧送事業団体連合会が創設されました。

創設当初より、全国統一安全・技術講習会の開催、技術と技能を磨くための技能者育成のための技術書である「コンクリートポンプ圧送マニュアル」の発刊、コンクリート圧送工事業の日本標準産業分類への位置づけ、労災保険の建設業適用の獲得、旧・労働省から認定を受けて始まった「コンクリート圧送技士」の育成、その後、国家資格となる「コンクリート圧送施工技能士」制度の創設と、業界の発展に向けた様々な取り組みに尽力してまいりました。そして、1988年、旧・建設省の認可を受けて、社団法人としての歩みが始まったわけであります。

社団法人設立後の業界を取り巻く環境は、たいへん厳しいものがありました。バブルの崩壊、平成不況、リーマンショックと、かつてない厳しい経営環境が業界を襲いました。最盛期には800社を数えた会員企業も、建設需要の激減と原価割れの安値受注競争により、多くの圧

送業者が倒産・廃業を余儀なくされました。何とかこの悪い環境を打破しようと、全圧連でコンクリート圧送料金の基本料金制度の確立を全国展開したのはこの頃であります。

そんな苦境の中でも、圧送技術の研究発表や元請の技術者向けの研修会を行うなど、精力的に活躍する単協も登場し、2005年には国土交通大臣の登録資格である、登録コンクリート圧送基幹技能者制度を創設、また今年の春には、初となる全国圧送技術大会を開催し、圧送の技術・技能の高度さを広く世に発表する場を持つに至りました。

公共工事予算は無駄遣いだ、大手元請会社の談合問題など、国民から建設産業は悪いイメージを持たれるようになりました。とりわけ、コンクリートに携わる業界は風当たりが強い時期がありました。今では、地震や台風・水害など、大きな災害の多いわが国で安心・安全な生活を守るための重要な産業として、印象が変わった感があります。東日本大震災以降、多くの復旧作業で建設業の皆さまが人のために、地域のために、国のためにと汗を流しました。コンクリートポンプもその中の一員として昼夜を問わず活躍しました。

それでも労働人口の減少から、この業界に就く若者は減りつつあります。建設産業における働き方改革の実現、現場で働く圧送技能者の人たちの作業環境と処遇の改善など、大きな課題が山積しています。労働力不足を補うための生産性向上策で、これまでの在来工法は今後大きく転機を迎え、将来のコンクリートポンプ圧送工法は、今とはまったく異なる姿となるかも知れません。

法人設立30周年を節目として、コンクリート圧送業がこれからの変化に対応しながらも、社会に貢献する、誇りを持てる専門工事業であり続けることができるよう、次の10年、20年を目指して、会員企業の皆さま方のますますのご努力と、本日ご参加いただきました関係各位の皆さま方の変わらぬご支援・ご協力を賜りますよう、切にお願い申し上げます。設立30周年の挨拶とさせていただきます。本日は、まことにありがとうございます。



一般社団法人 建設産業専門団体連合会
会長 才賀 清二郎 様
全圧連設立 30 周年祝賀会 ご挨拶

全国コンクリート圧送事業団体連合会の30周年記念祝賀会が盛大に開催されましたこと、誠におめでとうございます。

「30年」と言いますと若いような印象を受けますが、社団法人の前にも歴史があり、約40年以上の歴史を持った団体であるということを認識しております。私自身も昭和39年頃に東京で圧送業に就いていた経験がございます。当時のポンプ車は打ったら詰まる、上げたら詰まるというように、詰まることばかり考えてコンクリートを打っていました。今ではポンプ車の性能の向上や、皆さまの技術・技能の向上によって、スムーズに打設が進

行していることは素晴らしいことだと思います。今後もブームの長尺化が進み、より大きな構造物を打設することになると思います。今後も頑張っていたきたいと思います。

また、富士教育訓練センターの立替工事につきましても多大なご協力をいただき誠にありがとうございました。竣工式が無事に終わり、様々な方々に利用され始めています。全圧連の皆さまにもぜひご活用いただければ幸いです。

今後の全圧連の活動が40年、50年とより強固な団結力で頑張っていたきたいと思います。本日はおめでとうございます。



登録コンクリート圧送基幹技能者認定委員会
委員長 栗田 守朗 様
全圧連設立 30 周年祝賀会 ご挨拶

本日は、設立30周年を迎えられたこと本当におめでとうございます。平成30年度より登録コンクリート圧送基幹技能者認定委員会の委員長を務めております。本日は、その立場からお話させていただきます。

コンクリート圧送というのは現代の工事の基本です。まさに要であり、これをなくしては建物は作ることはできません。わたしは入社から三十数年が経ちますが、この30年間でもコンクリートは大きく変化してきました。そうした中で、全圧連の会員の皆さまが変化するコンクリートに対応して圧送をしてきたことは非常に重要なことであり、多大な努力を感じております。こうした活動にお礼を申し上げたいと思います。ありがとうございます。

基幹技能者制度は、2005年（平成17年）に設立され、2008年（平成20年）に国土交通省の認定を受けた登録コンクリート圧送基幹技能者資格になりました。これまで808名の方が合格されています。すべての都道府県に少なくとも1人以上の登録コンクリート圧送基幹技能者が

存在し、当初の育成目標人数1000名に徐々に近づいてきたところです。

ここで再確認しておきたいことは、登録コンクリート圧送基幹技能者というのは、単に圧送技術に留まらず、コンクリート工事全般に対する施工管理能力、調整能力、幅広い専門知識、優れた指導力を有する技能者に与えられる資格であるということです。これらを有している方が、登録コンクリート圧送基幹技能者として認定されます。これはとても重要なことです。十分に認識いただき、今後も仕事に励んでいただきたいと思います。

全圧連は2018年2月に第1回全国圧送技術大会を開催したところでございますが、専門工事業団体である全圧連が自分たちの主張をしたことは、建設業界の中でも極めて画期的なことだと感じます。ポンプ圧送に焦点を当てた大会というのは日本で初めてのことです。この圧送技術大会は2年前に長谷川会長と基幹技能者認定委員会で座談会をしたことがきっかけでした。当初は、大会運営や実現可能かなど不安視する意見がありました。私は

第1回の開催まで2～3年はかかるだろうなど見込んでおりましたが、1年間で開催したことはやはりすごいなと思いますし、組織力や実行力を感じました。第1回の大会では認定委員会の先生方が主導的な立場で開催に向けてご尽力をされておりましたが、今回の2021年の開催の際は、全圧連や技術委員会が主導する形になると思います。その中で登録コンクリート圧送基幹技能者が大きな役割を果たすのではないかなと感じています。逆に果たしてもらいたいという期待も持っています。

また、圧送業界の皆さまにひとつだけ個人的にお願いがあります。現在は現場打ちを前提として圧送業界は成り立っています。正直なところ、現場打ちだけで物を作っていくという施工方法はこの先も安定して続くのかという点は不透明です。現場打ちがなくなるということではなく、ゼネコンは生産性向上策のひとつの形で、プレキャスト工法にも力を入れていることも事実です。物

の作り方を変えていこうという趣旨が背景にあります。現状ではコンクリートポンプ工法は非常に優勢を保っています。ポンプ車なしでは建物は作ることができません。この優位性をいかに継続させるかということが重要になると感じています。そのために、全圧連を中心とした圧送業者側から、コンクリートポンプ工法を用いた新たな建設生産システムを提案してもらいたいと思います。こうしたことを生コン業者やゼネコンとのパートナーシップを構築した上で、圧送業者がリーダーシップを取り、取り組んで行くことで現場打ちや圧送業界が活性化するのではないかと感じています。

個人的な希望をお話いたしましたでしたが、今後皆さまますます40年50年と楽しく仕事をして、楽しく節目を迎えられたら良いと思います。本日はおめでとうございます。



一般社団法人 全国コンクリート圧送事業団体連合会

相談役 佐藤 勝彦

全圧連設立 30 周年祝賀会 ご挨拶

我々の仕事はコンクリート圧送事業でございますが、コンクリート圧送事業というのは50数年は我が国には存在しておりませんでした。当時コンクリートポンプという定置式のポンプがございました。それをトラックに搭載することによって、機動力を発揮することができ、移動ができるため受注機会も増え、稼働率も上がる。また、このころコンクリートポンプ車が開発され、ひとつの事業として成り立つのではないかとこのころから発生したのがコンクリート圧送事業です。その後、コンクリートポンプ車が全国的に普及し、全日本コンクリートサービス連合会というものができました。これが我が国における圧送業の一番最初の団体です。当時は圧送という言葉がございませんでしたので、コンクリートサービスという名前を使っておりました。そこから発展を続け、複数のコンクリートポンプメーカーが参入し、様々な性能のポンプ車が誕生しました。一気に圧送業の花が咲き、全国的に隆盛を極め、東京を中心とした全日本コ

ンクリート圧送事業団体連合会が発足いたしました。その後圧送業が社会的にも認められるようになり、建設業界の中でもなくてはならない存在であるということで、法人化をしてから30年が経過したところでございます。ここに至るまで、50数年前初めてコンクリートポンプ車を扱った先人の皆さま方の血と汗と涙の結晶で圧送技術・工法を確立したわけでございます。皆さま方のご苦勞の恩恵に預かっている次第です。全圧連の会員の皆さま、全圧連設立の趣旨である、良質なコンクリート構造物を作り上げる、地域社会に貢献する、という目標を忘れずに、今後もますます発展していただきたいと願うところでございます。

我々の業界の関連業者の皆さま、コンクリートポンプメーカーの方、あるいはポンプ車の部品・部材のメーカー、皆さま、また、本日も臨席の皆さま方のご隆昌、ご健勝を願っております。



一般社団法人 全国コンクリート圧送事業団体連合会
副会長 佐藤 隆彦
全圧連設立 30 周年祝賀会 閉会挨拶

本日、このような盛大な祝賀会が開催できたことは、設立当初よりご尽力いただいた先達の皆さまの努力の賜物であると心より敬意を表すところです。全圧連創設の理念を現在もしっかりと継承いただいております会員の皆さまの支えによりまして、本日があるということを改めて認識をいたしました。全国の会員企業の皆さまに改めて感謝を申し上げます。ありがとうございます。

全圧連は昭和63年に法人化し、平成と共に歩んできました。平成の時代はバブル景気からバブル崩壊、激甚指定災害におきましても、阪神・淡路大震災、自分の地元である東北でも震災がありました。近年では九州・北海道でも地震被害が発生し、また、台風や水害などの災害が猛威を振るう時代が平成であったと思います。そして10年前に起きたリーマンショックという大きな不景気を経験し、まさに平成は平ではなく激動のジェットコースターのような時代であったと感じております。

このような中、全圧連はさまざまな大きな課題に直面してきましたが、その課題に全国の会員の皆さまの叡智を結集し対応をしながら現在に至ることができたと思います。その歩みの一步一步は着実なもので、決して派手なものではございません。専門工事業界の中では小さい業界ではありますが、その活動はしっかりと成果を結ん

でおります。本日ご臨席いただきました才賀会長からも団体としての成果を評価をいただいていると感じております。長谷川会長や歴代の全圧連役員の皆さま方の働きに関して改めて敬意を評したいと思います。

そして来年、平成から新たな元号になり、新たな時代に向かっていきます。これから10年という時代を見ると、平成の30年以上に大きな変化があると報じられております。国民的イベントであるオリンピック。その後のポストオリンピック期には、また大きな景気の変化が訪れるように聞いております。また、「働き方改革」という大きな制度の変革がございます。これまで正しいと思っていた日本の商慣行や労働慣習が今後10年間で根底から一気に変わります。ただ、はっきりしているのは、全圧連や建設業界に対する防災・減災・国土強靱化というニーズはしっかりと高まっていくということです。皆さまの力を結集してこれからの課題に対してしっかりと対応していきたいと考えております。

全圧連が今後もますます、かつ着実に一步一步前進することを祈念いたしまして、併せて全国の会員企業のますますの御隆盛と、本日ご参会の皆様方のご健勝を祈念いたします。本日はありがとうございました。





平成30年度優秀施工者国土交通大臣顕彰式典 3名の建設マスター・2名の建設ジュニアマスターが誕生しました。

平成30年度優秀施工者国土交通大臣顕彰式典がメルパルクホール(東京都港区)で開催され、全圧連の会員企業から3名が建設マスターとして、石井啓一国土交通大臣より顕彰されました。

この顕彰制度は、建設産業の第一線で「ものづくり」に従事する建設技能者のうち、特に優秀な技能・技術を持ち、後進の指導・育成等に多大な貢献をしている方を平成4年度より「優秀施工者国土交通大臣顕彰(建設マスター)」として表彰し、優秀な技能者の社会的地位や評価の向上につなげることを目的に取り組んでいます。

また、優秀な技能・技術を持ち、今後さらなる活躍が期待される青年技能者の方々に「青年優秀施工者土地・建設産業局長顕彰(建設ジュニアマスター)」として顕彰しており、本年度は全圧連の会員企業から2名の方が顕彰されました。

ご受賞された皆さまに、「これまでの仕事で大変だったこと」、「やってきて良かったこと」、「受賞の喜びを伝えたい相手」、「これからの仕事にける思いについて、インタビューにお答えいただきました。



顕彰式典の様子

建設マスター受賞者



高津竜也氏 東圧興業 株式会社 (東京)

夏期工事の厳しさは圧送業界共通の認識ではありますが、2018年は災害レベルの酷暑が続き、都内での工事が主流である弊社の現場ではヒートアイランド現象による過酷なものになりました。高温多湿の環境下での高さ200mクラスの超高層マンション建設現場では、ポンプ車設置場所の条件も悪く、縦配管まで100m程の山谷配管での工事はこれまでで一番辛い経験となりました。

きついことも多い仕事ですが、多種多様な職人の方や関連業者の方と苦楽を共にして働き、刺激を受けることは私にとって大切な財産です。また、ランドマーク的な新築工事やオリンピック関連工事に携われたことを誇りに思います。

建設マスターの受賞にあたってご尽力くださった全圧連長谷川会長やスタッフの方々に喜びと感謝の意を、また今まで育ててくれた社長や諸先輩方、得意先の関係者の方や、そして今まで一緒に仕事してきた仲間たちに喜びを伝えたいです。

これからも圧送工事は進化していきます。その中で安心・安全・高品質な圧送工事を追求し、次世代の圧送業の若者たちにこの仕事の魅力を伝えていきたいと思っています。



中村光宏氏 有限会社 川端工業 (福井)

朝が早く帰りが遅い。そして、休憩も食事を取ることができない環境で、どれだけ頑張っても評価されないコンクリート圧送工事。いつまでこのような環境で働く人がいるのだろうと考えることが多々ありました。配合の悪いコンクリート圧送している最中は気を抜けない状況でした。近年、コンクリートは高強度化し、機械も高性能になっていますが、作業員は高齢化し、人はこれ以上進歩できないため、苦勞が絶えません。働き方改革で圧送業にも労働環境の改善や省力化に向けた機械化・材料などが始めているため、これらを有効活用し圧送業者の働き方の改善になるよう努めていきたいと考えております。

自分が打設で苦勞した、または職長として頑張った建物が形として残り、その建物を改めてみたときに日本のインフラを守る仕事に携わることができたことに感慨深くなりました。子供たちにも誇ることができ、あれもこれも、私が頑張って建てたところだと胸を張って言えるところ。私は圧送が好きです。

私は会社の社長であり、職人でもあります。これまで私を支えながら一緒に成長してくれた社員たちと喜びを分かち合いたいです。そして何より生活面で支えてくれた家族に、感謝の言葉を述べたいです。

先行モルタルや残コンの取り扱いについて、これまで以上に研究を重ね、圧送業界や、各企業、またはオペレータに新しい技術を提案し、地位や技術による収入の向上、働き方改革に繋がる業態を作ることができるよう、圧送業界のために尽力したいと思っています。



共田昌一氏 トモエポンプ（近畿）

夏は暑く冬は寒いという過酷な環境の中、圧送業者は他職と同じように休憩を取ることができません。特に暑中は生コンが硬化しないよう神経をすり減らしながら昼休憩も取らず気を配る必要があります。

しかしコンクリート圧送業は、建造物の多くがコンクリートを使用する現代において無くてはならない重要な意味を持った職種です。難しい仕事を多職の方と何度も打ち合わせを重ねながら、やり切ったときには大きな達成感を感じます。

今回の受賞は圧送作業にかかわる全ての方に感謝申し上げます。

今後の圧送業界は、後進の指導・育成、現場サイドから求められる技術・技能など、課題はたくさんありますが、自分の培ってきた能力で少しでも圧送業界、建設業界に貢献していきたいと思っております。

建設ジュニアマスター受賞者



大輪隆太氏 有限会社 北武圧送（北海道）

北海道の冬の打設作業は、基本的に氷点下での作業になります。圧送中断時には生コンが凍結して閉塞してしまうため、気が抜けない作業になり、何年やっても大変です。

自分が携わった現場が無事完成したときや、施主の方からお礼の言葉を言われたときには喜びや達成感を感じます。

今回の受賞は、会社の同僚や、お世話になった土工職種の方々、そして家族に伝えたいです。

安全作業を第一に、初心を忘れず、日々努力に努め、技術向上を目指して今後も取り組んでいきたいと思っております。



向井真紀氏 三城建機（東京）

私は青森出身ですが、東京で圧送業に就き初めて夏の暑さを体験したときは体が慣れず、辛い経験となりました。また、全管閉塞の経験なども心に残る苦い思い出になっています。しかしながら、自分の携わった現場がメディアに取り上げられ大きく報道されていたりするとこの仕事をやってよかったと感じます。

今回の受賞は家族に伝えたいです。今後もより丁寧かつ品質の良いコンクリート圧送を心がけて仕事をしていきたいです。

全面
刷新!



最新 コンクリート ポンプ 圧送マニュアル

全面刷新となる『最新コンクリートポンプ圧送マニュアル』を2019年1月に発刊いたしました（井上書院 A4判・411ページ）。

全圧連正会員の皆さまは事務局までお申し込みください。

その他の方々のご購入につきましては、出版社までお問合せください。

(株) 井上書院 <https://www.inoueshoin.co.jp>

また、アマゾン、楽天ブックス、e-hon、hontoなどの通販サイトからもご購入ができます。



新たに67名の登録コンクリート圧送基幹技能者が誕生いたしました。 平成30年度 登録コンクリート圧送基幹技能者 登録講習・試験 実施報告

平成30年8月25(土)～28日(火)、富士教育訓練センターにおいて、平成30年度の登録基幹技能者登録講習が実施されました。本講習は、国土交通大臣の認可を受け、建設業法施行規則に基づく登録講習として実施しています。

講習会開講式では、登録コンクリート圧送基幹技能者認定委員会委員長・栗田守朗氏(清水建設(株)・土木技術本部担当部長)より、「登録コンクリート圧送基幹技能者とは、コンクリートを送る技術だけでなく、コンクリート工事全体の知識を有し、生コンの受入れや打ち込みの間を取り持つ重要な施工管理能力を有する者に与えられる資格で、建

設産業の中で重要な役割を担う。その役割を果たせるように、ベストを尽くしてもらいたい。」との挨拶がありました。

最終日の8月28日(火)には認定試験が実施され、厳正な審査の結果67名が合格し(合格率73.6%)、10月31日付で「登録コンクリート圧送基幹技能者講習修了証」が交付されました。新たに登録基幹技能者として認定された方々は、(一財)建設業振興基金ホームページ内の「登録基幹技能者データベース(<http://yoi-kensetsu.com/kiikan>)」に登録されております。

本年度の合格者を含め、これまでに869名の登録コンクリート圧送基幹技能者が現場で活躍しています。



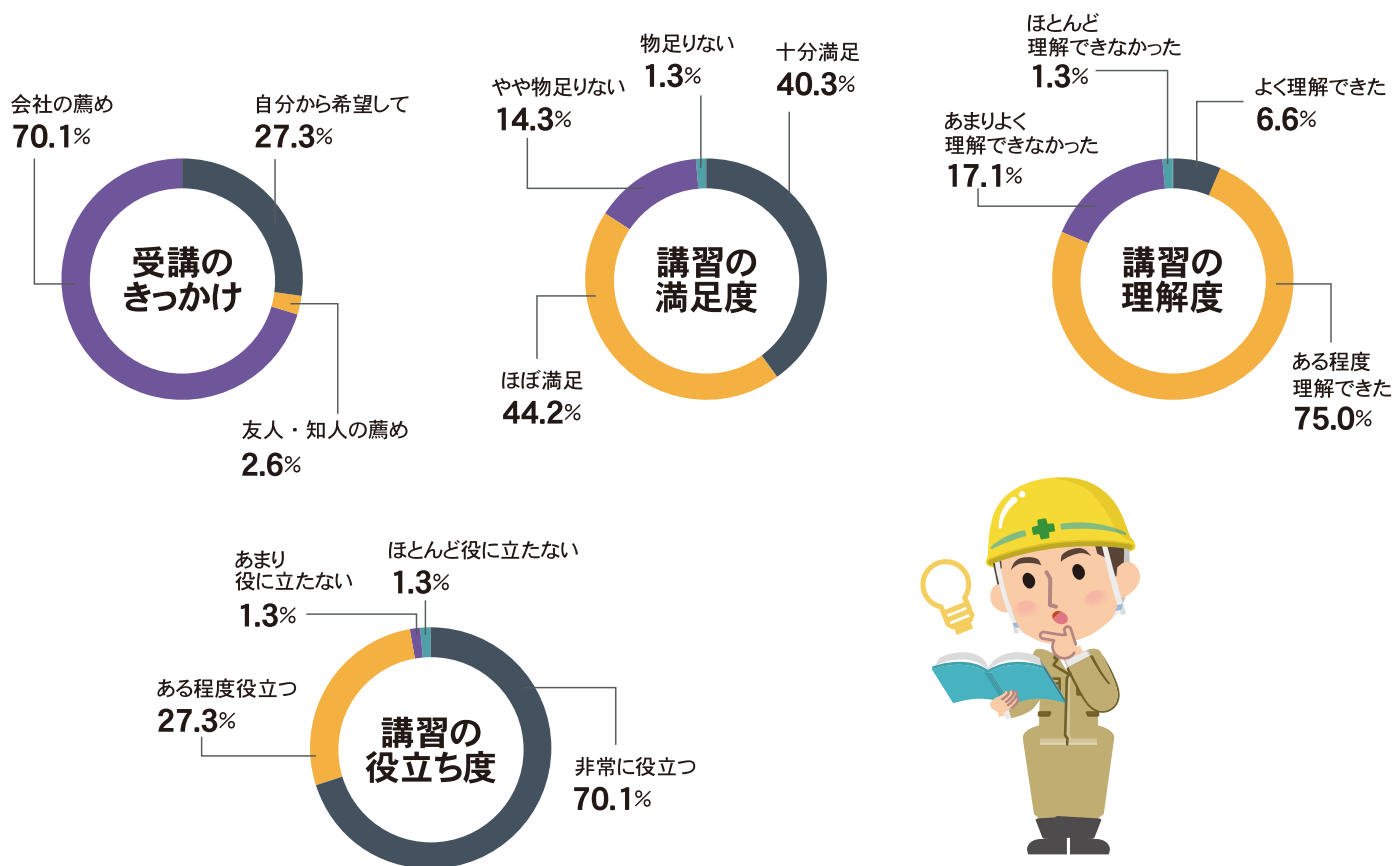
登録講習の様子

登録コンクリート圧送基幹技能者の都道府県別所在状況(会社住所2019年1月現在)

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|----|-----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 北海道 | 青森 | 秋田 | 岩手 | 山形 | 宮城 | 福島 | 茨城 | 栃木 | 群馬 | 埼玉 | 千葉 | 東京 | 神奈川 | 新潟 | 富山 | 石川 | 福井 | 山梨 | 長野 | 岐阜 | 静岡 |
| 31 | 15 | 8 | 13 | 39 | 12 | 9 | 17 | 12 | 17 | 34 | 28 | 17 | 31 | 6 | 5 | 6 | 10 | 10 | 7 | 45 | 35 |
| 愛知 | 三重 | 滋賀 | 京都 | 大阪 | 兵庫 | 奈良 | 和歌山 | 岡山 | 鳥取 | 島根 | 広島 | 山口 | 徳島 | 香川 | 愛媛 | 高知 | 福岡 | 佐賀 | 長崎 | 熊本 | 大分 |
| 56 | 35 | 16 | 18 | 61 | 62 | 15 | 12 | 2 | 2 | 15 | 12 | 10 | 6 | 3 | 12 | 4 | 26 | 11 | 17 | 2 | 6 |
| 宮崎 | 鹿児島 | 沖縄 | 全国計 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 15 | 17 | 869 | | | | | | | | | | | | | | | | | | |



登録コンクリート圧送基幹技能者登録講習・試験 受講者アンケートより



講習全体を通しての感想や要望をお聞かせいただきました。

- ◆計算問題と記述式問題の講習をもう少し受けたかった。基幹技能者としての役割がよくわかり、今後に生かしたいと思う。お世話になりました。
- ◆試験問題の応用問題が難しくついていけなかった。他の地域の圧送業者との技術などの情報交換ができて良い経験になった。
- ◆講習会場をできれば分散してほしい。时期的に2～3月に講習してほしい。各担当講師の説明がわかりやすかった。
- ◆全体を通して良い勉強になった。部下に対する指導や監督に対しての教え方、コンクリートの知識の深さ、基幹技能者のあり方、打設方法や機種を選定だけでなく、安全面、コストなども含め全体的に考慮をしなくてはならないこと。そのためには今回の講習がなくては学べない部分があった。
- ◆夏の暑い時期に仕事から帰ってきてからの事前課題の勉強が大変だったので、講習会を秋にしたほうが良いと思う。
- ◆食事は美味しかったし、部屋はとても綺麗だった。講習内容については、計算式のところがわからないまま次々進んでいくので頭がパニックになった。計算問題を時間をかけて教えてもらいたい。
- ◆記述式の時間がもう少し欲しい。題材を決めて時間内に書く練習をやりたかった。
- ◆圧送業者同士が会える場であり、情報交換できたことに満足だった。講習を毎日していると自分のレベルアップが感じられ良かった。建物も綺麗で満足でした。
- ◆勉強期間がもう1日あると助かるが時間的に難しいと思うので、自由研究のようなものを夕食後にでも毎日自由参加で組んでもらえると受講者同士交流できやすく勉強が捗る気がした。
- ◆計算問題がかなり難しい。講習は全体的によかった。知らないことだらけで勉強になった。

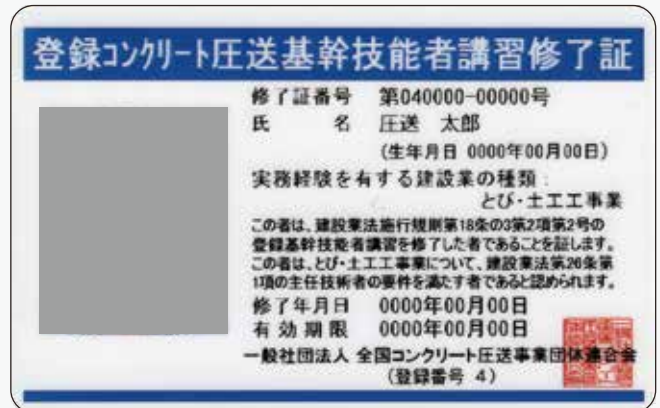


登録コンクリート圧送基幹技能者 更新講習を3会場にて実施しました。 本年度は137名が更新を修了。

登録コンクリート圧送基幹技能者をはじめとする登録基幹技能者制度は、建設業法施行規則に基づく国土交通大臣認可による資格制度であり、登録基幹技能者としての知識と能力を担保するため、5年に1度の更新講習を行うことが定められています。

平成30年度は、東京(10月6日)・大阪(10月13日)・東京(10月27日)の3会場で更新講習を実施し、計137名の方が受講・修了いたしました。

2019年度の講習は、9～10月に複数回の開催を予定しております。対象となる方には追ってご連絡いたしますが、修了証の有効期限を半年以上過ぎると、再度認定試験を受験していただくことになりますので、期限内に必ず更新講習を受講されるようお願いいたします。



2019年度(平成31年度)の更新講習は、
※有効期限が平成31年度、平成32年度の方が対象です。

建専連 平成30年度全国大会を開催

全圧連ほか建設専門業38団体で組織する(一社)建設産業専門団体連合会(略称:建専連、才賀清二郎会長)は、「働き方改革に取り組む専門工事業～変わりゆく現場“夢と希望”を求めて～」をテーマとし、平成30年11月15日、日本消防会館ニッショーホール(東京都港区)にて平成30年度全国大会を開催しました。

開会挨拶で才賀会長は、「若者が生涯を託せる産業であることを専門工事業界から発信していくことが重要であり、個々の業種団体の枠を超えた横断的課題に取り組み、健全な建設産業を目指す政策集団として、引き続き積極的な事業を展開したい」と述べました。

大会では、建設業振興基金の内田俊一特別相談役が建設産業の担い手問題を巡る基調講演のほか、女性技能労働者によるパネルディスカッション「女性技能労働者から見た建設現場“夢と希望”を求めて」をテーマに、女性であるがゆえの困難な経験や働きがいなどについてパネルディスカッションが行われました。



建専連 全国大会の様子

第20回事務局長会議を開催

第20回事務局長会議が9月14日（金）、戸田家（三重県鳥羽市）にて開催されました。

会議では、各講習会の通知書類、提出書類の様式変更に向けた意見交換のほか、全圧連との連携強化に向けた協議、また単協事務局運営に関する問題や改善点について意見交換が行われました。



事務局長会議の様子

第20回理事会・代表者会議を開催

第20回理事会・代表者会議が10月19日（金）、シェptonホテル東京（東京都港区）にて開催されました。

会議では、本年度上期事業報告・決算報告、賛助会員の社名変更について、残コン改良剤「TERA」への販売事業の移行について、「最新コンクリートポンプ圧送マニュアル」の発刊について、外国人材受け入れ拡充に伴う新たな在留資格創設への対応について、次年度建設マスターの選定などの審議の後、各単協の状況報告と意見交換が行われました。



理事会・代表者会議の様子

第63回技術委員会を開催

第63回技術委員会が11月16日（金）、ホテルスカイタワー宮崎駅前（宮崎県宮崎市）にて開催されました。

会議では、建設キャリアアップシステムの遅延と施工能力の見える化について、残コン改良剤「TERA」の販売への移行について、先行材のJIS化検討について、資格証入れの刷新と販売について、平成30年度技能検定対策と過去問題集の発刊について、『最新コンクリートポンプ圧送マニュアル』の発刊について、JIS A 8612（ブーム先端機材規定）の改定に向けた要望について、各種講習会の事務手続きの変更について、ヘルメット貼付用安全・技術講習会修了シールについて、フルハーネス義務化への対応について、建設業における外国人就労拡大について、登録コンクリート圧送基幹技能者認定試験・更新講習報告などについて審議が行われました。

また、九州圧送事業協同組合連合会の協力を得、委員会の開催前に、技術委員会WG（ワーキンググループ）による宮崎市内の建設現場の安全パトロールを実施いたしました。



技術WGによる安全パトロールの様子



技術委員会の様子

第21回 若手幹部研修会を開催

第21回若手幹部研修会を開催

第21回若手幹部研修会が11月9日～10日、福岡東映ホテル（福岡県福岡市）にて開催されました。この研修会は、コンクリート圧送業界の次代を担う若手幹部の方々に、コンクリート圧送工事業の現状と課題を理解し、新しい視点から業界の将来像を展望することを目的として、平成10年から毎年開催しています。

第1日目は、（一社）福岡県建設専門工事業団体連合会 建設産業専門団体九州地区連合会 事務局長代理 長濱浩樹氏より、「安全のトライアングルとやる気の科学」と題し、建設業界の現況、労働災害を起こさないための三要素・コミュニケーションの向上、従業員のやる気の質を変化・向上させるための講義が行われました。

続いて、日本大学理工学部建築学科教授 中田善久氏より、「『最新 コンクリートポンプ圧送マニュアル』の改定内容について」と題し、本年度発刊が予定される改定版圧送マニュアルの内容に関する講義が行われました。

第2日目は、アットアンドイン（株）代表取締役（独）中小企業基盤整備機構九州本部アドバイザー 段谷陽一郎氏より、「中小企業の経営と経営者（経営、基本のキ）」と題し、企業や経営者の現状、企業の抱える課題点、今後必要なコトやモノ等に関する経営研修が行われました。

本研修会は次年度も継続開催を予定しております。参加者からいただいたアンケートを基に、魅力ある研修内容を企画したいと考えておりますので、皆さまの奮ってのご参加をお待ちしております。



研修会の様子（講師：長濱浩樹氏）



研修会の様子（講師：中田善久氏）



研修会の様子（段谷陽一郎氏）



研修会の様子（グループワークの様子）



懇親会の様子

平成 29 年度 経営実態アンケート調査報告書を発表

全圧連経営委員会は、平成 29 年 3 月から平成 30 年 7 月にかけて実施した、平成 29 年度経営実態アンケート調査結果報告書を発表しました。今回の調査では、全国の会員圧送会社のうち 260 社 (57.3%) から回答を得る高回答率を達成することができました。

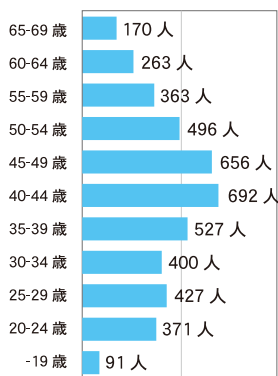
圧送従事者数は、前年比 0.2 人増の 10.6 人。年代別では、29 歳以下が全体の約 5 分の 1 を占めていますが、外国人実習生の人数が前年比 35 人増の 199 人であるため、根本的な新規入職者の確保が改善状況にあるとは言い難い状況です (図①参照)。

1 社あたりの年間コンクリート圧送量は、職人不足と生産性向上を図るための鉄骨造 (S 造) やプレキャストコンクリート使用の影響を受け 10 万 2,904 m³と減少傾向が見られる一方で、**1 社あた**

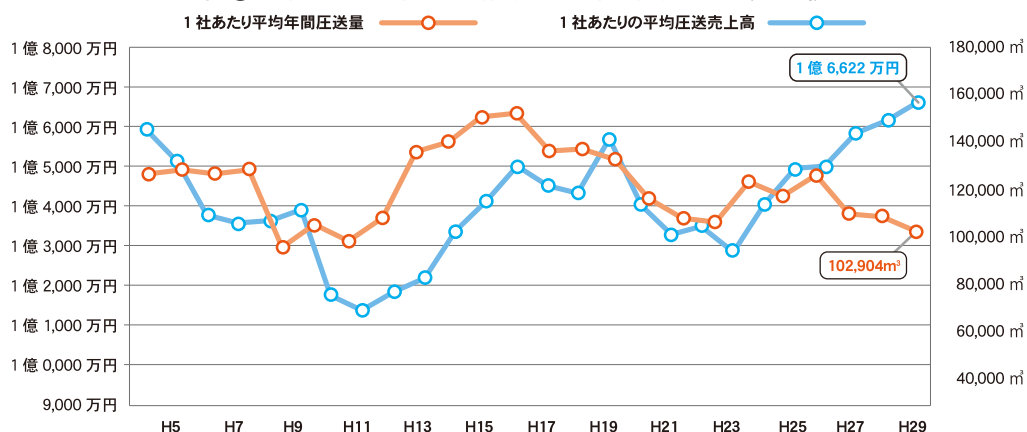
平成 29 年度の主な調査項目結果

| | |
|------------------------------------|---------------------------|
| 1 社あたり圧送従事者数 | 10.6 人 |
| 圧送従事者の平均年齢 | 42.1 歳 |
| 1 社あたり年間圧送売上高 | 1 億 6,622 万円 |
| 1 人あたり年間圧送売上高 | 1,343 万円 |
| 1 社あたり年間コンクリート圧送量 | 10 万 2,904 m ³ |
| 1 稼働あたりコンクリート圧送量 | 80.5 m ³ |
| 1 m ³ あたり売上高 | 1,833 円 |
| 1 m ³ あたり労務費 | 681 円 |
| 1 m ³ あたり圧送経費 | 300 円 |
| 圧送従事者の年間給与手当 | 426 万円 |
| 10 年以上経過のポンプ車の割合 (うち 15 年以上経過車) | 56.0% (35.1%) |

図① 圧送従事者年齢の構成比率



図② 1 社あたりの平均年間圧送量・平均圧送売上高の推移

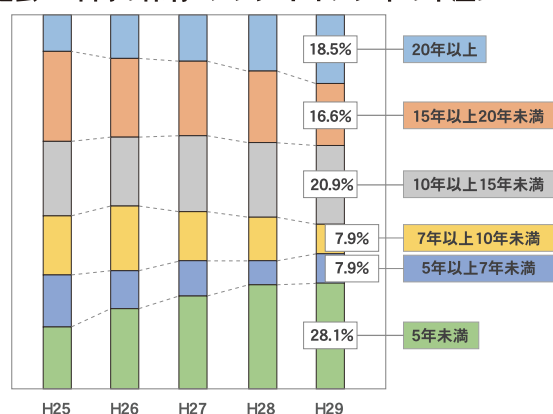


りの圧送売上高 (年間完成工事高)の平均は、1 億 6,622 万円と、近年増加傾向が見られます (図②参照)。これは、減少するコンクリート圧送量に対して、経営を維持していくための受注金額の引き上げに各会員企業とも努力していることや、法定福利費の確保が進みつつあること、またこれまで切り捨てられてきた附帯料金 (追加作業員、配管料など) が確保できる状況に転じてきたことがうかがえる結果となりました。

圧送従事者の年間給与手当総額は、昨年度よりオペレータの保有資格別 (経験年数別) の調査を実施しておりますが、登録基幹技能者クラス (経験 15 年以上) は約 512 万円、圧送施工技能士 1 級クラス (経験 10 年以上) では約 452 万円、圧送施工技能士 2 級クラス (経験 5 年程度) では、約 395 万円と、すべてのクラスで上昇が見られました。

保有するコンクリートポンプ車の車歴については、10 年以上経過した車が昨年度より、前年比 1.9% 増の 56.0% と近年増加傾向にあり、5 年未満の車については、前年比 0.5% 増の 28.1% とこちらも増加傾向が見られます。徐々にポンプ車の更新が進んでいることが伺える一方で 10 年以上経過した車は依然として半数以上を占めており、老朽化によるブーム折損などの重大労働災害の発生が懸念されます (図③参照)。

図③ 過去 5 年間の保有コンクリートポンプ車の車歴について



会員企業の皆さまからご協力をいただいておりますの経営実態アンケート調査は、コンクリート圧送業界の実態を向を示す唯一の貴重な資料となります。本調査結果を活用しさまざまな事業に活用させていただきます。

「平成 29 年度経営実態アンケート調査報告書」は、全圧連のホームページからもダウンロードができます。



従業員の
安心が
事業主の
信頼に



建退共は建設業で働く
労働者のための

退職金制度です。



国がつくった退職金制度
なので安心かつ確実!!

制度説明動画 配信中

建退共



スマートフォン
携帯サイトは
こちらから▶▶



けんたいきょう

独立行政法人 勤労者退職金共済機構
建設業退職金共済事業本部
〒170-8055 東京都豊島区東池袋1-24-1 TEL 03-6731-2866

建設業界の皆様へ

建退共に参加しませんか

福祉の増進と企業の振興のための国の退職金制度です

建設工場の第一線で働く優秀な人材確保にも最適!

●加入できる事業主は
建設業を営む事業主

●対象となる労働者は
建設業の現場で働く方

●掛金は
一日 310円
(加入労働者ひとり)

◎法律に基づき運営される国が作った制度
◎建退共加入は「経営事項審査」で加点評価
◎国からの財政上の支援
(国の助成により掛金の一部が免除)

特長

◎掛金は全額非課税
(損金または必要経費に算入できません)
◎複数の企業間で就業しても通算して
退職金を支給
◎加入の手続きは簡単
(各都道府県の建退共支部で加入)

建退協のホームページを、是非ごらん下さい。

建退協

検索

全圧連の動き

9月

- 8日 登録基幹技能者認定委員会⑤(東京)
- 14日 第20回事務局長会議(三重)
- 20日 第64回経営委員会WG(東京)
- 26日 第56回技術委員会WG(東京)

10月

- 4日 中間会計監査・監事会(東京)
- 6日 登録基幹技能者更新講習①(東京)
- 13日 登録基幹技能者更新講習②(大阪)
- 19日 第20回理事会・代表者会議・常務会④
・全圧連設立30周年記念式典(東京)
- 27日 登録基幹技能者更新講習③(東京)

11月

- 9日 第21回若手幹部研修会(福岡)
～10日
- 15日 建専連全国大会(東京)
- 16日 第63回技術委員会(宮崎)

12月

- 1日 登録基幹技能者認定委員会⑥(東京)
- 6日 第65回経営委員会WG(東京)

1月

- 4日 登録基幹技能者認定委員会⑦(東京)
- 16日 第21回理事会・代表者会議・常務会⑤
賀詞交歓会(東京)

今後の主な予定

2月

- 2日 第66回経営WG・第57回技術委員会WG
合同WG会議(神奈川)
- 6日 第64回技術委員会(東京)
(フルハーネス型安全帯使用作業特別教育)
- 16日 登録基幹技能者認定委員会⑧(東京)
- 26日 近圧協 第15回圧送技術研究会(大阪)

3月

- 2日 第58回経営委員会(東京)
- 18日 常務会⑥・建機工との連絡会議(東京)

4月

- 16日 第22回理事会・代表者会議
・常務会①(東京)
- 20日 登録基幹技能者認定委員会①(東京)

5月

- 22日 第8回通常総会・常務会②(東京)

編集後記

2018年は第1回圧送技術大会から、各種会合、全圧連30周年記念式典などへ多大なるご協力をいただき誠にありがとうございました。2019年は平成から新たな元号となり、建設業界は働き方改革や、建設キャリアアップシステム、外国人の受入れ制度など、新たな施策が動き出します。会員の皆さまの全圧連事業へのかかわらぬご理解・ご協力を賜りたく、何とぞよろしくお願ひいたします。



一般社団法人
全国コンクリート圧送事業団体連合会

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町1-13-5
藤野ビル7階

TEL 03-3254-0731 FAX 03-3254-0732

Email: info@zenatsuren.com

http://www.zenatsuren.com